

Urban Design Lab. Magazine

2年間の思い出を胸に —平成23年度学位記授与式—

Graduating with memories of 2 years – Commencement Ceremony 2012 – text_yabuki

3月22日(木)、平成23年度の学位記授与式が行われました。都市デザイン研究室では博士課程4名(南、傳、鄭、タリック)、修士課程9名(高見、西村、前川、村本、安川、矢吹、山重、吉田、李)、空間計画研究室では修士課程3名(木口、尾瀬、中村)、また今年度をもって永瀬助教がご栄転されることから、総勢17名が研究室から旅立つ事となりました。皆様から研究室への置き手紙を頂きました。

卒業生からの置き手紙 (修士編) Message from Master course student



▲学位記を手にする卒業生一同と先生方

1日、1週間、1ヶ月と猛烈なスピードで駆け抜け、気が付けば2年。時が経つのを早く感じるのは、好きなことに熱中していたからなのかなと思います。頭・手足・五感をフル回転させながら、実際の地域を調査し、考え議論して、アウトプットする。このプロセスで、都市デザインに関わる様々なことに挑戦し、自分のやりたいことに楽しみながら打ち込みました。先生、先輩、同輩、後輩と多くの方に支えられて過ごした、研究室での日々は、とても濃密で心地良い時間でした。本当にありがとうございました。



高見亮介
Ryosuke Takami

振り返れば、駆け抜けるような2年間でした。でも、この2年間は、今もそしてこれからも、私にとってかけがえのないものだと感じています。多くの人と出会い、一緒に悩み、笑い、成し遂げられたこと、新たな挑戦、自分の興味を研究として取り組んだこと、書ききれないほどの思い出。人生を決めるの1つのポイントとして、都市デザイン研究室に出会い、過ごせたことを、本当に嬉しく、そして心強く思います。ありがとうございました！



西村裕美
Hiromi Nishimura

研究室での2年間は振り返ればあっという間でしたが、「人生で最も…」がつくことばかりで、刺激的な日々でした。のびのびとした環境で、1人では決して出来ない事をたくさん経験させてもらいました。特にプロジェクトは、実感を通して得られるものが多く、価値観すら広げてくれました。「好き」の理由を考え抜くことの大切さを学べた事は大きな糧になると思います。先生方、研究室の皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました！



安川千歌子
Chikako Yasukawa

思えば遠くに来たものでもう卒業です。僕はこの研究室から卒業したくありません。修士時代の2年間は暖かくてすごった日々でした。まだそれを捨てたくないのです。しかし、ほんの数箇月で新しい環境にも慣れ、楽しんでいる自分が容易に想像できます。僕は都合のいい人間なのです。だからこそ置いていけなくて駄々をこねているのです。このような修士時代を過ごせたのはひとえに先生方、研究室のメンバーのおかげです。2年間、ありがとうございました。これからもよろしく願います。



村本健造
Kenzo Muramoto

都市と真剣に向きあうやりがいのある研究やプロジェクト、素晴らしい先生方と頼りになる先輩達と後輩達、そしてなにより優秀な同期に恵まれ、もはや「日常」となったこの修士生活は忙しくも幸せな日々でした。何は無くとも来てしまう研究室の居心地の良さはまた恋しくなるでしょう。僕の場合はあと数週間後、社会に出てから「あー大学院生活に戻りたい。」と確実に言っている様な気がします。研究室の皆さま、本当にありがとうございました。これからも宜しくお願いします！



矢吹剣一
Kenichi Yabuki

振り返ってみると、研究もPJもあと結局やめてしまったコンペも、もっとやりようがあったなあと思う一方でそんなに後悔もしていない自分がいます。研究室に入って突然色々な人と対峙し、2年間、数えきれない真剣な話やおかしな話をした経験は、わたしに他では得難い多くのものをくれました。この2年は忙しく、怒濤のように過ぎたけれど、今までで最も濃密で自由で、そしてたくさんの出会いに恵まれた時間でした。そんな時間を与えてくれ、色々な場面で支えてくれた先生方、研究室の皆さん、本当にありがとうございました！



前川綾音
Ayane Maekawa

東大は、豊富なコネクションや一流の人材、特定分野の最先端へのアクセス等、本当にたくさんのチャンスにあふれた場所だと思います。自身の研究の際も、現地の大学や政府の方、当研究の権威の方を紹介して頂きました。また、民間の立場からのアプローチということで、UTECという東大内の企業でのインターン経験もすることができ、何よりも当研究室の本当に優秀で、多様な考え方に触れたことが大きな財産となりました。溢れる機会を無駄にする事なく、自分なりに満足いく研究生活を過ごして下さい。二年間本当にお世話になりました。



山重徹
Toru Yamashige

自分の力不足を常に感じながらも、行く先々で必ず得るものがあり嬉しくなる、そんな充実した毎日でした。今まで親身になって支えてくださった先生方、先輩方、本当にありがとうございました。後輩の皆さん、これから人数が減ってPJの運営が大変になりそうですが、忙しさをいいわけに使わないで下さい。後でもっとやれたと悔いが残らないよう、また弱音を吐いて負の連鎖を作らないよう、充実した日々を送って下さい。



吉田健一郎
Kenichiro Yoshida

最初の「谷根干PJ」で日本語もろくに喋れず、図面の作成に精一杯だったことや、先輩達の追いコンのためのスライドショーを一生懸命作ったこともまるで昨日のこのように憶えています。気づくともう自分たちの追いコンが目の前に迫りましたね。短かったけれど、先生方や同期たちのお陰で、毎日が充実した2年間でした。3.11を経て、当たり前のような日常や居場所が今はなくなりつつあります。それと同時に都市や社会の本質を改めて考える1年となりました。社会人になるこれからは、研究室で積み重ねた力で一歩ずつその答えに近づければと思います。



李峰浩
Bongho Lee

永瀬先生からの置き手紙

Message from Dr.Nagase

4月より和歌山大学観光学部の専任講師としてご栄転される永瀬節治先生から研究室へメッセージを頂きました。

「都市デザイン研究室での6年半」

永瀬 節治 助教

25歳にして上京し、この研究室の扉を叩いてから、気づけば6年半。修士までを過ごした仙台での年月に並んでいる。就職を棒に振って、悩んだ末に行き着いた場所だったが、その後の展開など、当時は全く想像できなかった。ただ、それまで思いはありながらも不完全燃焼だった「まちづくり」なるものに、正面から向き合える場所だという直感だけがあった。入ってみると、想像以上に雑多で、それだけに豊富な経験が得られる場所だった。

学生の自主性に委ねる西村・北沢両先生の大らかさに支えられ、中島・野原両助教の真摯さと熱意に感化されながら、まちづくり・都市デザインなるものに取り組む感覚を吸収することができた。都市や地域への関心を共有し語り合える仲間がこれほど集まっていることも大きな励みになった。不器用ながら論文を提出して学位取得にこぎつけ、図らずも助教の立場で関わり続けることとなったが、まだまだ教わることの方が多

かった。窪田先生の細やかな配慮と洞察力の深さ、黒瀬さんの対話力と信頼感、そして学生の成長ぶりからも多くの刺激を受けた。そこへ地域という存在そのものを揺るがす大震災が起こった。少なからぬ縁のある東北の風景が変わってしまった。

まだまだここで吸収すべきものがあると実感しつつも、めぐり合わせで、和歌山大学に赴任する機会を与えていただいた。これまで東京にしながら、八尾、喜多方、足助、佐原、五箇山、そして大槌と、地方のまちに関わってきたが、次は和歌山という地方に身を置いて、「観光」と「まちづくり」をいかに融合させるかという、これまでも取り組んできた大きなテーマに、正面から挑むことになる。この研究室での経験を土台に、地方で暮らすことのリアリティを肌で感じながら、持続力のある地域づくりの方法論を模索していきたい。



▲足助プロジェクトの現地調査にて

プロジェクト報告

一年の集大成 & 来年へ向けて

新年度も間近に迫るなか、現地報告会を開催した高山PJチームと、名古屋港を視察した清水PJチームに近況を報告してもらいます！

高山 Takayama-project プロジェクト

M1 安東 政晃

3月18日(日)、高山市上宝町長倉集落の寄り合いの場で、高山PJの活動で創りあげた地域マネジメント計画の発表会を行いました。西村先生のご挨拶から始まり、長倉集落の資源、課題、それらに基づいた計画の方針、そして実行していく取り組みを発表しました。その後、同席していただいていた高山市役所の方々や地域の方々、今後の取り組みについて議論する場面もあり、長倉集落の今後に繋がる機会になったのではと感じています。また、発表後の懇親会で「自分の住んでいる場所について再認識できました。」という感想を戴き、外部の人間が地域づくりに参画することの意義を感じました。

今後、この計画をもとに地域の方々为主体となって行動していく必要があります。その皮切りとして、4月1日に長倉のみなさんと岐阜県石徹白の地域づくりを見学しに行く予定です。



▲発表に挑む高山PJの4名



▲熱心に聞きいて下さる住民の皆さん

清水 Shimizu-project プロジェクト

text_omori

3月18日(日)、19日(月)に清水プロジェクトメンバーで名古屋港・四日市港の視察に出かけました。名古屋港では港町づくり協会の方にヒアリングを行い、名古屋港西築地地区での取り組みを伺いました。地域の魅力や資源・イベントをいかに伝えるかを真剣に考え、フライヤーや瓦版・まち歩きマップなどのデザインに力を入れていること、地域外にファンを増やすこと、芋づる式に人を結びつける複数のイベント企画など、大変参考になる話の連続でした。

また四日市港では、M2高見さんの修論を参考に明治期の波止場や防波堤、清水に似た構造の街や倉庫などを見学しました。この1年間M1だけで取り組んできた清水プロジェクトでしたが、他地域と比較することで、まだまだ足りない部分や清水だけの魅力などに気付かされ、大きな収穫を得た視察旅行でした。



▲可動橋を渡る貨物列車に偶然遭遇



▲名古屋港のガントリークレーン群

Information

2012 公開活動報告会

日時：4月13日(金) 15:30～18:00

場所：東京大学本郷キャンパス工学部 14号館 141 講義室

2011年度に都市デザイン研究室が進めたプロジェクトの成果を、報告会という形で発表いたします。報告会は一般公開しますので、都市デザイン研究室に関心のある方、都市デザインを勉強してみたい方、誰でもご自由に参加いただけます。ぜひお越し下さい。



▲昨年度の報告会の様子

4月の予定

3月27日 足助PJ現地報告会

4月12日 入学式@日本武道館

4月13日 2012年度研究室活動報告会+2012年第1回研究会会議
新入生歓迎

編集後記 都市デザイン研マガジン 第7代編集長 矢吹 剣一

1年間ご購入いただきありがとうございました。

本号を持ちまして2011年度編集部体制での発行は最後となります。編集部員の皆に支えてもらい何とか一年間編集長を務める事が出来ました。毎回お読み頂いていた読者の皆さまにも深く感謝申し上げます。

過去最多のプロジェクト数とその情報量、多くの連載記事等を抱えながら「何」を読者の皆さまに伝えるか、いかに限られた紙面の質を上げるかという点に苦心した一年でした。その中でも新企画や他大学とのマガジン対談・レクチャーの開催・情報発信(Twitter)など新たなことに挑戦出来たかと思えます。

さて最近、研究室のHPにどの位アクセスがあるかを調べると1ヶ月で千回超のアクセスがある事を知りました。それはアジアに留まらず全世界からのものであり、この研究室が世界に開かれていることを実感します。しかし、情報発信のコアとも言うべきはこの「都市デザイン研マガジン」です。今後も紙媒体・紙面の質のこだわりを忘れず、研究室の活発な活動が内外へ発信されることを願っています。今後も都市デザイン研マガジンを宜しくお願い致します。